2015年8月19日発行 ■発行責任者／長谷川利彦 ■編集・制作／（株）プロトリオス ■発行／（株）NGP 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F TEL03(5475)1200 定価／1部30円

NIPPON GOOD PARTS NGP NEWS
2015 No.293 8月号
全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

NGP協同組合、ISO品質・環境及びOHSAS労働安全衛生マネジメントシステムの認証一括取得を開始

組合員1社1社が真の価値を求め お客様と環境に優しい企業となるべく 実務に即した業務改善に臨みます

NGP協同組合・環境委員会の藤原庸正委員長

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合（長谷川利彦理事長）はこのほど、ISO9001:2015品質マネジメントシステム、ISO14001:2015環境マネジメントシステム、OHSAS18001:2007労働安全衛生マネジメントシステムについて、NGP本部で全組合員を統括し一括して認証を取得するための統合システム構築・運用を開始しました。

NGP協同組合ではすでに、ISO9001の認証については2007年9月にNGP本部が取得し、ISO14001についてはNGP組合員各社が個別に取得しております。しかしながら、両規格が9月に大幅改定されることに伴い、各マネジメントシステムの改修が必要となるため、認証更新に多額の費用と業務量が発生することが懸念されています。

また、自動車リサイクル業界のみならず様々な業界で若手人材の確保・育成が非常に困難な状況下で、安全かつ快適な労働環境の構築はもはや急務となっています。

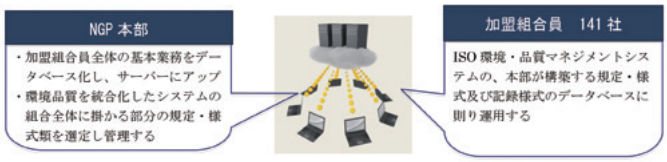
そして、事業環境が日に日に厳しさを増していく自動車リサイクル業界において、NGP協同組合が今後も発展していくためには、単純に全体の組合員数と売上規模を拡大するのではなく、組合員1社1社が企業としての経営基盤を強化することが必要不可欠です。

このような状況の変化を受け、NGP協同組合は、ISO9001及び14001、OHSAS18001の3種類すべてを総括するシステムをNGP本部で構築・運用し、各認証を一括取得する方針を決定しました。これにより、各マネジメントシステムの認証取得及び更新に必要となる費用は大幅に低減される見込みです。

同時に、単に各マネジメントシステムの認証取得をもって企業価値を高めるのではなく、各業務の効率向上及び品質改善、地球・地域環境への負荷軽減、労働環境の改善を継続的に実施できる統合システムを導入することで、NGP組合員1社1社の経営基盤を常に強化し、真に価値ある企業へと成長させていきます。

NGP協同組合では、6月より組合員向け説明会を各地で順次開催し、7月末より審査を行い、8月末を目処に一括認証を取得する計画です。NGP協同組合の藤原庸正・環境委員会委員長は、「近年はメリットがなく費用も高額という認識から、業界を問わずISO取得が下火の傾向にありますが、今回の一括取得はリーズナブルかつ実務に即した、メリットのある内容としました。また、損害保険会社やAmazonなど大手流通会社との信頼関係強化という観点からも、第三者機関による評価を受け認証を取得することは不可欠となっています。組合員からの反響も大きいため、今後は全組合員の早期認証取得を目指していきます」と、認証一括取得後のビジョンを話しています。

7月4日にNGP本部で開催された組合員向け説明会の様子



新マネジメントシステム運用スキームのイメージ

機工協、2014年度自動車機械工具販売実績を発表

販売総額は1,000億円超えも前年度割れ、スキャンツールはほぼ半減

日本自動車機械工具協会（機工協、中谷良平会長）は7月29日、2014年度の自動車機械工具販売実績を発表しました。2014年4月1日から2015年3月31日までの販売総額は、対前年度比1.4%減の1,015億9,977万2千円となり、2年連続で1,000億円台の大台を突破したものの、5年ぶりに前年度の実績を下回りました。

記者会見の席で佐藤正幸流通委員長は、「昨年4月の消費増税前に発生した駆け込み需要の反動減が大きく、昨年度後半には盛り返したものの前半の落ち込みを完全にカバーすることはできませんでした」と、その概況を説明しました。

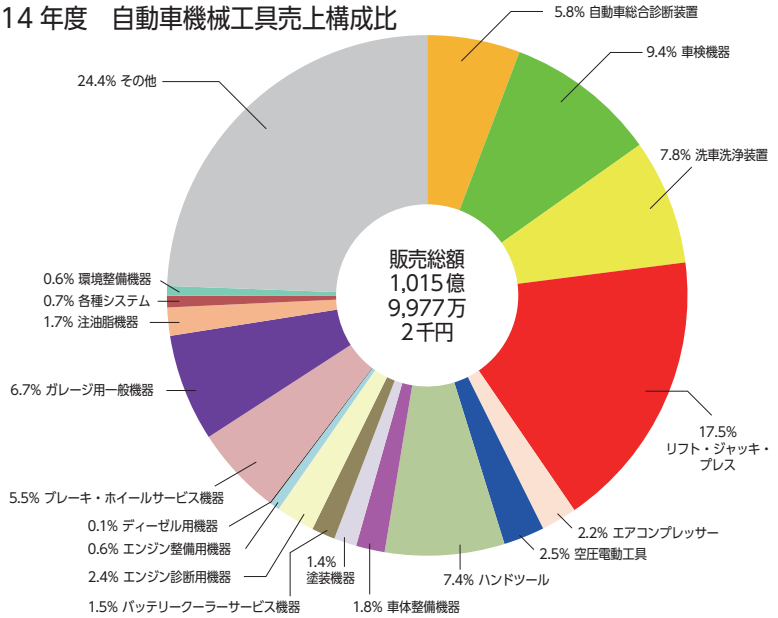
また、「当会の実感としては、乗用車ディーラーは横ばい、大型車ディーラーは若干伸張し、専業・兼業工場は1割弱減少、カー用品店は10%以上減少しました。カーメーカー向けは海外を中心として大幅に増加し、陸運局など検査場向けも伸びています」と、業態別の販売傾向に関する見解を示しています。

項目別では、塗装機器が前年同月比38.1%増の14億2,580万6千円、自動車総合診断装置が同30.2%増の58億6,080万円、ディーゼル用機器が同27.1%増の7,272万4千円と大きく伸びる一方、エンジン診断用機器は同35.1%減の24億4,686万2千円、ブレーキ・ホイールサービス機器が29.2%減の55億9,348万1千円へ急減しました。

特に、塗装機器に含まれる塗装ブースは、「老朽化による代替が進んだ」（佐藤流通委員長）ことにより、台数では25.6%増の113台、金額では同71.6%増の10億2,725万4千円へと急伸しています。一方、エンジン診断用機器に含まれるスキャンツールについては、台数では同41.2%減の1万3239台、金額では同45.4%減の17億3,830万円と大きく落ち込みました。

これについて佐藤流通委員長は「昨年度は政府による2度目の補助金交付が実施されましたが、この時点で専業・兼業工場の多くは導入の是非をすでに決定しており、購入することとした工場にはほぼ行き渡ったという実感が非常に強くなっています。対して導入しないと決めた工場は、このような施策だけでは動かないでしょう。今年度も3回目の補助金交付が実施されますが、今回より代替目的の利用が可能となった導入後5年超のスキャンツールは多いため、今後はその代替需要を狙っていきます」と、販売急落の原因と今後の動向を分析しています。

2014年度　自動車機械工具売上構成比



損保協会、2014年度の決算概況を発表

等級制度改定の影響で自動車保険の正味支払保険金が減少

日本損害保険協会はこのほど、加盟26社の2014年度決算概況を発表しました。

それによると、2014年度の正味収入保険料は8兆831億円で対前年度比3,118億円増（＋4%）、正味支払保険金は4兆6,054億円で同452億円増（＋1%）でともに増加し、損害率は62.3%（同－1.8%）に改善しています。正味支払保険金の増加は、2014年2月に発生した雪害による火災保険の支払いなどによるものです。

正味収入保険料の増収に加え、資産運用粗利益も国内外株式の配当金の増加などにより増益となったため、経常利益は前年度比＋80.1%の7,468億円に上っています。また、経常利益に特別損益や法人税等合計を加減算した当期純利益は、同＋76.8%で3,788億円となり、過去最高益となりました。

自動車保険では、正味収入保険料が3兆8,768億円で同1,120億円（＋3%）増加、正味支払保険金は2兆1,308億円で同233億円（－1.1%）減少しました。収入保険料が増加した一方で支払保険金が減少した理由としては、2012年から順次導入された等級制度改定による保険請求放棄事案の増加の影響が大きいと考えられます。

損害保険会社の
2014年度保険種目別正味事業成績

		正味収入保険料		
		金額(億円)	構成比(%)	増減率(%)
自動車		38,768	48.0	3.0
火災		12,397	15.3	8.1
	地震	1,131	1.4	17.2
海上・運送		2,657	3.3	4.6
障害		7,014	8.7	2.1
自動車損害賠償責任		10,203	12.6	2.4
新種		9,790	12.1	6.2
計		80,831	100.0	4.0

		正味支払保険金		
		金額(億円)	構成比(%)	増減率(%)
自動車		21,308	46.3	△1.1
火災		7,282	15.8	8.5
	地震	96	0.2	△36.0
海上・運送		1,372	3.0	0.3
障害		3,535	7.7	△0.3
自動車損害賠償責任		7,708	16.7	△1.3
新種		4,849	10.5	4.9
計		46,054	100.0	1.0

国交省、「自動車整備人材の確保・育成に関する検討会」を設立

労働環境・待遇改善、女性活用拡大などのための具体的改善策を検討

国土交通省は、少子高齢化や若者の車離れなどで自動車整備士の不足がすでに顕在化していることを踏まえ、その具体的改善策を議論するための「自動車整備人材の確保・育成に関する検討会」を設置し、6月18日に同省内で第1回会合を開催しました。

冒頭の挨拶に立った同省の田端浩自動車局長は、「自動車整備人材の確保は、カーオーナーの安全安心を確保する観点から非常に重要ですが、近年人材不足が問題となっており、専門学校入学者は過去10年間で半減し、日本自動車整備振興会連合会（日整連）が実施したアンケートでは約5割の事業場で整備士が不足しているという結果が得られました。この検討会を設置することで、具体的にどのような実効性のある方策があるかを検討していきたいと思います」と、同会設置の経緯を説明しています。

その後の審議では、自動車整備業を取り巻く状況を確認し、2013年11月から2014年4月に開催された「自動車整備要員人材不足対策に関する勉強会」、2014年4月に関係14団体が設立した「自動車整備人材確保・育成推進協議会」の活動内容を振り返った後、自動車整備士の労働環境に関する比較データが紹介されました。

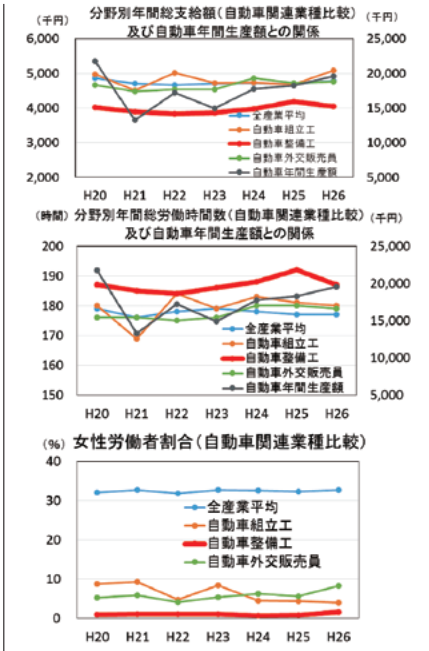
自動車組立工・外交販売員など自動車関連従事者との比較では、給与水準・労働時間とも他の全産業平均と同程度であるにも関わらず、整備士は平均より給与水準が大きく下回り、かつ労働時間は平均よりも長く、自動車生産額の影響を受けにくい傾向です。また女性比率は、自動車関連業種が全産業平均に対し低い中でも特に、整備士では低くなっています。

また、機械修理工、販売店員、福祉施設介護員など他業種との比較では、給与水準は機械修理工より低く販売店員や福祉施設介護員より高い程度です。労働時間は機械修理工と同程度に長く、女性比率も機械修理工と並んで極めて低い水準のため、いずれの項目においても改善が必要との方針が打ち出されました。

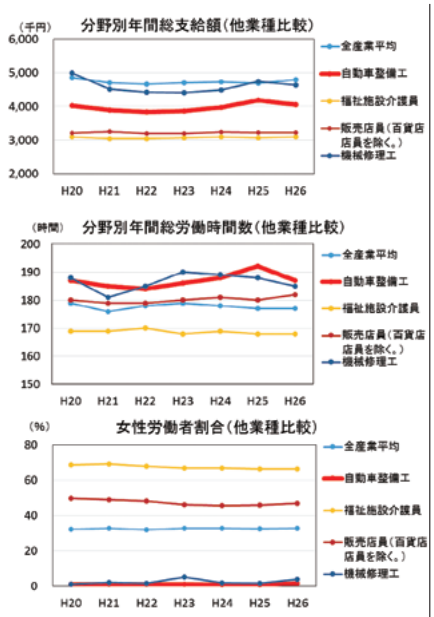
ハイブリッド車など次世代自動車や先進予防安全装備の普及に伴い自動車整備技術が高度化していることに対しては、一級整備士の活用や研修・講習会の充実による人材育成、カーメーカーからの整備情報提供やスキャンツール普及・IT化推進による環境整備、国際化への対応を柱とした整備技術向上・育成を進めることが必要との見解が示されています。

検討会冒頭の挨拶に立つ田端浩自動車局長

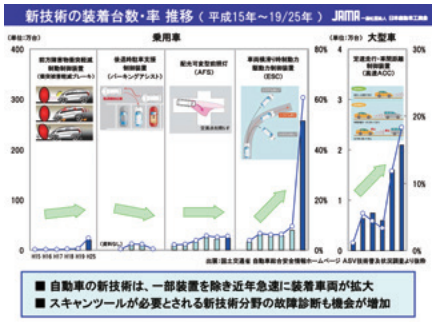
今後はこれら課題に関し、9月までにハローワークやインターネットを通じた好事例等の調査を行うとともに、9～12月にアンケートを実施・集計して、2016年3月頃に検討結果の最終報告書を発表する見込みです。



出典：国土交通省「自動車整備士不足の現状と行政の取組」（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」、経済産業省「生産動態統計年報」より作成）



出典：国土交通省「自動車整備士不足の現状と行政の取組」（厚生労働省「賃金構造基本統計調査」より作成）



先進予防安全技術装着台数・率の推移（出典：日本自動車工業会「安全OBDに対応したスキャンツールの共通化）

NGP 今月のCO_2削減量

リサイクル部品利用に伴う削減効果

平成27年6月：**4,184t**

※一般社団法人 日本自動車工業会が1998年に公開している自動車LCA（ライフサイクルアセスメント）データをベースに、NGPにて1500cc車両の部品重量調査結果からCO_2削減効果参考値を算出しております。

リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

平成27年6月：**21.7t**

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO_2排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を算出しております。

第２回管理者研修会開催
自社とNGPグループの成長に不可欠な“人を育てる”ことの重要性を学ぶ

NGP組合員会社の管理者を対象にした、第２回管理者研修会が７月16～18日の３日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で開催されました。

今回はNGP組合員各社から５名が参加し、NGPグループの歴史からNGP三大信条の意義に始まり、廃掃法・自動車リサイクル法や労務・安全管理、公害防止、リスク防衛からなる工場業務のコンプライアンス、さらには実務部門での管理帳票の活用法、仕事の教え方などについて学びました。

初日にはNGP協同組合の青木勝幸顧問が講師として訪れ、NGPグループの歴史を振り返りました。その中で、「NGPグループを設立した大石一彦名誉顧問はその当時より“人を育てる”ことを最重要視しており、また非常に厳しく妥協がありません。それは、全組合員が同じように顧客対応・品質評価できるようにならなければ、全国の自動車リサイクル部品を本当の意味で共有することは実現できないからです」と、NGPグループ30年の歴史の中で脈々と受け継がれている人材教育への思いを振り返りました。

２日目に実施された仕事の教え方に関する研修では、ホイールやバッテリーなどの取り外し作業について動画を視聴し、まず指導前の作業を撮影した動画で問題点と具体的な改善方法を考察して、指導後の動画で効果確認をしました。さらには、実車のウィンカーランプを用いて組み付け作業を教える実習も行われ、従業員の誰もが同じ手順を守り、同じ品質でより安全かつ迅速に作業できるようにするためのポイントを学びました。

３日目の修了式では、「部品販売、車両仕入れのことだけではなく、社会、地域から必要とされる会社作りをします」（(株)アイエス総合、久光秀樹さん）、「見よう見まねで教えるのではなく、作業手順書、計画表、管理表を用い、社員への仕事の教え方を改善します」（リ・パーツ(株)坂井自動車、清水陽さん）と、管理者としての決意を表明しています。

ウィンカーランプの組み付け作業の教え方を体得する受講者たち

NGPの歴史とNGP三大信条の意義について詳しく説明する青木勝幸顧問

また、研修終了後の感想で(株)栃木パーツの清水暁さんは「研修で学んだコンプライアンスや仕事の教え方、管理帳票や行動計画作成は、いずれも管理者として知識を持ち取り組まねばならないことばかりです。これまではほぼ担当部門だけに対し自分なりに考え教えてきましたが、教わったことを会社に持ち帰り実践して、良き管理者を目指し会社を運営していける存在になりたいと思います」と、会社を運営できる管理者になるべく目標を新たにしました。

第12回青年部会開催
NGPグループ発展・継続のための礎となるべく役割と定義を再確認

NGP青年部会の第12回会合が７月17日、東京都港区のNGP本部で開催されました。今回は青年部会メンバー９名が参加したほか、NGP協同組合の多田幸四郎相談役も出席しました。

会の冒頭に多田相談役が「NGPの歴史と青年部に今後期待すること」と題した講演を行い、大石一彦名誉顧問との出会いから現在までの道のりを振り返りつつ、設備投資の重要性を説いています。また、「NGPグループを存続させるためにも、自社をいかに成長させていくかが今後ますます重要になります。その上で、これまでにない新しい発想を生み出すことが青年部会に求められています」と、若さを活かしたより柔軟かつ積極的な活動への期待を青年部会メンバーへ伝えました。

その後、来期第12期に向けた今後の活動方針について議論され、青年部会の役割を「NGPを発展・継続させるべく、若手（将来）経営者の基盤を整えること」と明確化した上で青年部会執行部を設立し、他業種青年部会との交流、NGP協同組合顧問・相談役の講演を通じたNGPの歴史再認識、NGP組合員工場見学、経営実務勉強会開催などを計画・実行していく方針が示されています。

組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
北関東	カースチール株式会社	会社代表	代表取締役　小川由貴雄	27年6月24日

訃報

7月8日、津田鋼業(株)(福井県越前市)
津田隆二代表取締役のご尊父、
津田育宏(つだいくひろ)様がご逝去されました。
享年90歳。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1208　FAX:03-5475-1209
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP
〒108-0074　東京都港区高輪3丁目25番33号　長田ビル2F
TEL:03-5475-1200　FAX:03-5475-1201
http://www.ngp.co.jp/